# 国際協力最前線

## 第153回
## 「タイの高齢化対策に日本の経験活かす」
### 地域包括ケアサービス開発プロジェクト（S－TOP） チーフアドバイザー　小出顕生

バンコクの高層ビル群や社会の活力、人々の経済成長への夢は、日本人からみて羨（うらや）ましい一方で、格差が大きく成長に取り残されている人々も多くみられる。

今のタイの高齢化率（６５歳以上人口割合）は１０％強と日本の３０年前くらいの水準だが今後２０年間あまりで、今の日本の姿に近づき、医療・介護をはじめ諸課題が顕在化してくると予想される。

国際協力機構（ＪＩＣＡ）では２００７年より、タイの高齢化を見すえた技術協力を行ってきており、17年より第3フェーズとして5年間の「切れ目のない（ｓｅａｍｌｅｓｓ）地域包括ケア開発プロジェクト」（Ｓ－ＴＯＰ）がスタートした。

コンケン　高齢者の通所サービスセンターにて

ＪＩＣＡオフィシャルサポーターの伊達公子さんがノンタブリ　高齢者・障害者リハビリテーションセンターを視察

### ◇全国８カ所でサービスモデル構築

日本では、ここ３０年ほど、介護保険創設（２０００年）など高齢化の進展に即した医療介護システムの再構築、最先端医療の適切な取り込み、制度の持続可能性の追求（急騰する費用のコントロール）が重要課題となってきた。

タイでは、国民皆医療保障 、旧来型の感染症への対応体制の整備といった成果をあげる一方、生活習慣病やそれに起因する脳卒中 ・認知症などへの対応、コミュニティーを中心とした医療供給体制の再構築、患者が殺到する医療機関への適切な資源配分（人員・予算）などが課題となっている。

中でも健康障害をきたした高齢者への一貫したサービスの流れが未確立であり、タイ政府の要請をうけ本プロジェクトでは、全国８カ所でサービスモデルを構築、ＰＤＣＡサイクルによる改善、政策提言 を行うことを目指している。

具体的には、保健省や職能団体との意見交換、８カ所のパイロットサイトの訪問・見学・意見交換（年２～３回）、タイ国内研修会の実施（年数回）、病院等の実務責任者・各地域の政策責任者の日本研修（それぞれ年1回）などの活動を行っている。

### ◇「タイの文脈」で日本の技術経験を役立てる

初期のパイロットサイト訪問では、地域の医療、介護、行政、ときには地域で患者・高齢者・障害者のお世話をするヘルスボランティアなど１００人規模の関係者と車座になり小分けしたテーマごとに共通課題設定、具体的対策などを話し合った。

１カ月半ほどで８カ所こなしていくのはかなりハードだったが、各地域の現状、地域差などが具体的に理解でき、それにもまして、明確な理解と対応策の検討・遂行、周囲を巻き込んでいく力をもつキーパーソンを見つけ、相互理解を深めることができ、今後のプロジェクト活動の大きな財産になっていくと考えている。

チーム"Ｓ－ＴＯＰ"

活動にあたっては「押しつけ」にならず、最終的にはタイ人により「タイの文脈」で日本の技術経験を役立ててもらうことが大事だと考えており、諸制度の前提となる社会文化の相違点を踏まえながら日本の経験を丁寧に説明、紹介するよう努めている。

日本よりずっと少ない職員数、予算割り当ての中で奮闘する医療介護関係者には心から敬服しており、同じように日本で頑張っている人たちとの橋渡しをする仕事に充実感を感じるとともに微力を尽くしていきたいと思っている。

【筆者紹介】 小出顕生（こいで・あきお） 厚生労働省において、医療、福祉、年金等の企画立案業務に携わり、２０１７年11月同省より、ＪＩＣＡ･タイ国地域包括ケア開発プロジェクト（通称Ｓ－ＴＯＰ）チーフアドバイザーとして派遣。東京都出身。１９６２年生まれ。